



「イシュマエル逃亡 ～バビロンの叱責を恐れる民」

| エレミヤ書講解-79 エレミヤ書 41:11~42:22 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 41章 】

- 11 しかし、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいた軍のすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルが行ったすべての悪を聞くと、
- 12 部下をみな連れて、ネタンヤの子イシュマエルと戦うために出て行き、ギブオンにある大池のほとりで彼を見つけた。
- 13 イシュマエルとともにいたすべての民は、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいるすべての高官を見て喜んだ。
- 14 こうして、イシュマエルがミツパから捕らえて来た民のすべては身を翻し、カレアハの子ヨハナンの側についた。
- 15 ネタンヤの子イシュマエルは、八人の者とともによハナンの前から逃れ、アンモン人のところへ行った。
- 16 ネタンヤの子イシュマエルがアヒカムの子ゲダルヤを打ち殺した後、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいたすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルから取り返したすべての残りの民、すなわちギブオンから連れ帰った勇士たち、戦士たち、女たち、子どもたち、および宦官たちを連れて、ミツパから
- 17 エジプトに行こうとして、ベツレヘムの傍らにあるゲルテ・キムハムへ行き、そこにとどまった。
- 18 バビロンの王がこの地の総督としたアヒカムの子ゲダルヤを、ネタンヤの子イシュマエルが打ち殺したため、カルデア人を恐れたからである。

(4ページへ続く)

- 1 軍のすべての高官たち、カレアハの子ヨハナン、ホシャヤの子イザンヤ、および身分の低い者も高い者もみな近づいて来て、
- 2 預言者エレミヤに言った。「どうか、私たちの願いを受け入れてください。私たちのため、この残りの者すべてのために、あなたの神、【主】に祈ってください。ご覧のとおり、多くの者の中からわずかに私たちだけが残ったのです。
- 3 あなたの神、【主】が、私たちの歩むべき道と、なすべきことを私たちに教えてください。」
- 4 そこで、預言者エレミヤは彼らに言った。「承知しました。見よ。私は、あなたがたのことばのとおり、あなたがたの神、【主】に祈り、【主】があなたがたにお答えになることはみな、あなたがたに告げましょう。あなたがたには何事も隠しません。」
- 5 彼らはエレミヤに言った。「【主】が、私たちの中で真実で確かな証人であられますように。私たちは必ず、あなたの神、主が私たちのためにあなたを遣わして告げられることばのとおり、すべて行います。
- 6 それが良くても悪くても、私たちは、あなたを遣わされた私たちの神、【主】の御声に聞き従います。私たちの神、【主】の御声に聞き従って幸せを得るためです。」

〈 途中割愛 〉

- 19 ユダの残りの者よ、【主】はあなたがたに『エジプトへ行ってはならない』と言われた。私が今日あなたがたに証したことを、確かに知らなければならぬ。
- 20 あなたがたは、自分たちのいのちの危険を冒して迷い出てしまったからだ。あなたがたは私をあなたがたの神、【主】のもとに遣わして、『私たちのために、私たちの神、【主】に祈り、すべて私たちの神、【主】の言われるとおりに、私たちに教えてください。私たちはそれを行います』と言ったのだ。
- 21 私は今日、あなたがたに告げたが、あなたがたは、自分たちの神、【主】の御声を、すなわち、主がそのために私をあなたがたに遣わされたすべてのことを聞こうとしなかった。
- 22 だから今、確かに知らなければならぬ。あなたがたが、行って寄留したいと思っているその場所で、剣や飢饉や疫病で死ぬことを。」

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

## ◆はじめに ～人間の計画と神の御心の間で

### 1. 箴19:21

- (1) 私たち人間が考えることは、不完全であり部分的である。  
\* 神の計画こそ完全であり、主のはかりごとだけが成る。
- (2) 神のことばよりも、自分の計画を優先してしまう原因  
\* 不信仰や無知、過度な欲望、目に見える恐怖など

### 2. ユダの民は、再び神のことばに背く

- (1) バビロンは民衆の生活保障や戦後処理などで、人格的な一面を見せた。
- (2) 派遣された総督が暗殺されたことの責任は、決して小さくない。  
\* バビロンへの抵抗は、世の知恵としては選択肢の一つである。
- (3) 「暗殺事件の責任」という恐れがきっかけとなり、不信仰が行為として表れる。

## ◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 神に従う姿勢の見極め

\*このメッセージは、御心を第一とする姿勢を自己吟味し、実践するためのものである。

=====



## I 暗殺の責任を問われる恐れ (41章11節～42章6節)

### 1. アンモンに逃亡するイシュマエル

- (1) ヨハナンによる追跡失敗  
① カレアハの子、ヨハナンはユダに残された将校たちのリーダーになっていた。  
\* ヨハナン：イシュマエルによる暗殺計画を察知し、総督ゲダルヤに報告した人物。  
② 彼は暗殺事件(40:16)の犯人イシュマエルを、部下と共に追跡していた。
- (2) ギブオンで一度追いつき、拘束していたユダの民を奪還した。  
① 「イシュマエルとともにいたすべての民」：ミツパから捕らえてきた民  
\* ミツパはゲダルヤ暗殺の地であり、復興に向けての臨時政府が置かれた。  
② エレミヤもこの人々の中にいたと思われる。
- (3) イシュマエルは8人の者と共に、アンモン(アモン)へ逃げ帰る。  
① 暗殺計画は、アンモン人の王バアリスによる(40:14)  
② 暗殺犯イシュマエルを取り逃がしたことは、バビロンとの政治問題になる。

### 2. エジプトに逃亡する民

- (1) 総督ゲダルヤの暗殺は、バビロンへの反抗として受け取られかねない。  
① ユダは再攻撃を受ける恐れがあり、民は恐ろしくなった。  
② その場にいた高官たち、すべての人が対応を考え、同じ結論に導かれた。
- (2) 「エジプトへの逃亡」を心に決めた。  
① ユダが生き残る唯一の方法であると認識され、ベツレヘムまで既に来ていた。

### 3. 神の助言を求める

- (1) この行動が神の御心か気になり、エレミヤの助言を求めた。
- (2) 彼らの思いは既に決まっていることを、エレミヤは知っていた。  
① 「神のことばのままに、すべてをお話してください」という民の本心。  
\* この状況からエジプト行きは止むを得ず、正しい行動であるという確信。  
② 民の判断を承認してもらえる前提でのやり取り(偽善的態度)

## II エレミヤへの神の答え (7～22節)

### 1. 神のことばに従順であれ

- (1) 神の答えは、10日経ってエレミヤに与えられた。
- (2) この助言はユダの民が信仰から力を得て、恐れに打ち勝つことを求めている。  
① エジプト逃亡の決心(人間の計画)を思いとどまること。  
② エレミヤのことば(神の御心)に従順であること。

### 2. 従順に伴う祝福 3点

- (1) ユダにとどまるのが主の御心である。それに従うならユダで繁栄する。
- (2) バビロンの王を恐れる必要はない。全能の神の守りの御手が伸ばされる。
- (3) 従順になるならば、神の恵みが与えられる。  
① それには、バビロンに捕囚された者たちの帰還さえも含んでいる。

### 3. 不従順への呪い 3点

- (1) エジプトが安全で、豊かな食物もあると言って逃れるならば、主の呪いが下る。
- (2) その呪いは、剣と疫病とききん(これまで幾度も語ってきたさばきの象徴的表現)
- (3) エジプトに下った者の上には、エルサレムの住民に下ったのと同じ呪いが下る。

## ◆まとめ：神に従う姿勢の見極め

### 1. 神のことばよりも自分の決断を上置く例：イエス時代のパリサイ人達

- (1) 安息日を含む律法(口伝律法)についての、イエスとの論争  
① 「メシアは私たちの教えに賛同する」という勝手な確信から、イエスを拒否した。
- (2) 父に感謝し、イエスをメシアとしてを受け入れることこそ御心であった。  
\* 彼らは許されざる罪として、エルサレム崩壊(70年)を経験し、離散の苦しみを味わった。
- (3) 結：逃亡せずに暗殺を詫び、バビロンに従うことこそ、最善の選択であった。

### 2. 人間が立てる計画に対する姿勢

- (1) 聖書は人間が計画を立てることを否定しているのではない。  
\* それが、神様の御心に沿ったものであるなら、素晴らしいことである。
- (2) 私たちの理解や確信は正しいものか  
① 私たち(信者)の思いは、時に御心を踏み外してしまうことがある。  
\* 不信仰、無知、過度な欲望、目の前に見える恐れ  
② 神の御心は、時に、世の常識を超えた所にあり、世から批判されることもある。  
③ 真に恐れるべきものは何か：最後は神の御心のみが成る。